

実験漁場におけるホタテガイ モニター養殖試験 (昭和56年貝—I)

三戸 芳典・田中 俊輔・青山 禎夫・平野 忠・仲村 俊毅
五十嵐照明・浜田 勝雄・山本 正昭・吹越 弘光

はじめに

当所実験漁場においてモニター養殖をする事により、陸奥湾におけるホタテガイの成育状況を常に把握し、へい死を再発させない養殖技術の指導・定着を図る事を目的とする。

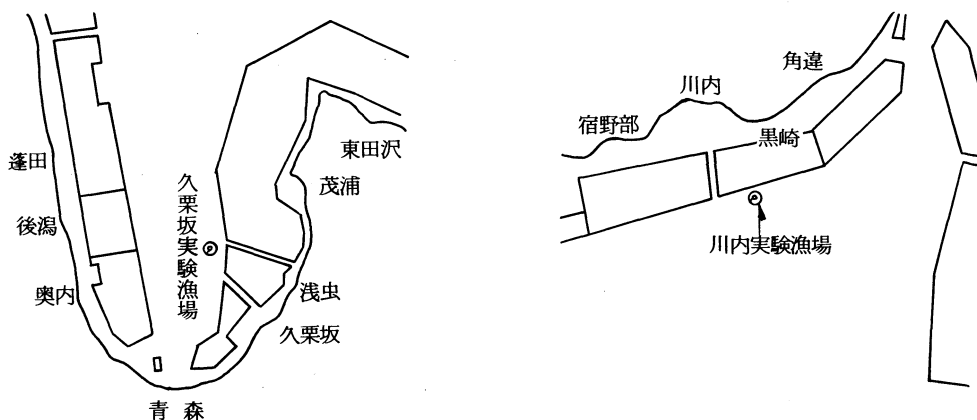
試験方法

試験場所：当センター久栗坂・川内実験漁場（第1図）

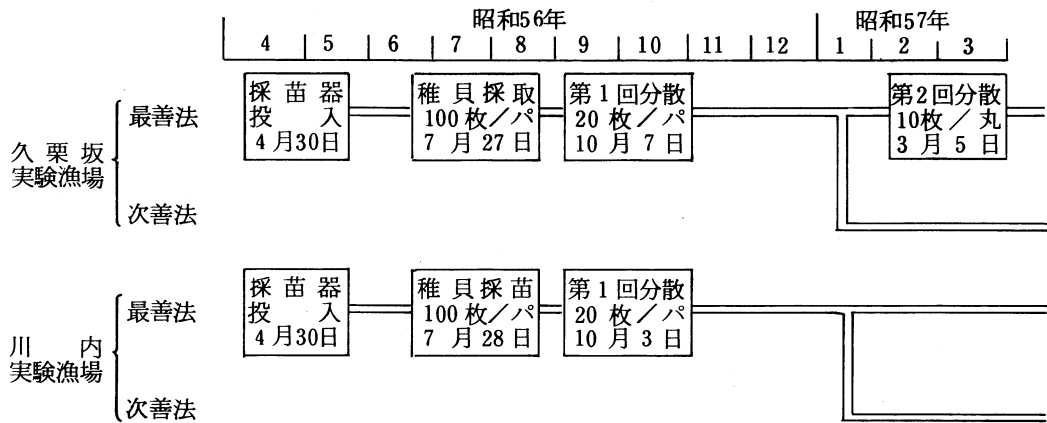
養殖管理作業：作業に伴う傭船の他は、施設作製から養殖管理・成貝取り揚げ作業まで当センター職員が行った。

養殖方法は、第2図に示したホタテガイモデル養殖試験によって確立した最善法・次善法で行った。

貝の測定は、稚貝採取・分散・全湾養殖実態調査時その他必要に応じて行った。



第1図 実験漁場図



第2図 養殖管理作業工程図

試験結果

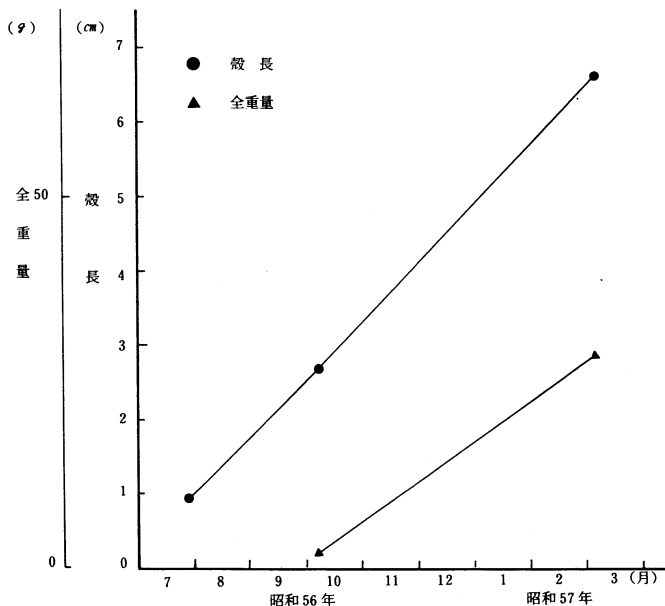
1 養殖管理作業

基本的な管理作業工程は昨年と同様であるためここでは省略し、作業日程等について述べることにする。

久栗坂・川内漁場共に昭和56年4月30日に採苗器を投入した。この時の200 μ 以上のラーバ出現率は全湾平均で48%であった。

稚貝採取は久栗坂漁場で7月27日、川内漁場で7月28日に行った。

第1回分散は久栗坂漁場で10月7日、川内漁場で10月3日に、最善法の第2回分散は久栗坂漁場で昭和57年3月5日に行った。



第3図 久栗坂実験漁場における殻長と全重量 長と全重量

第1表 測定結果表

工 程	場 所		久栗坂実験漁場	川内実験漁場
	稚 貝 採 取	月 日		昭和56年7月28日
平均殻長			9.4 mm	7.3 mm
異常貝出現率			0.0%	0.0%
第 1 回 分 散	月 日		10月7日	10月3日
	平均殻長		26.7 ± 2.4 mm	28.9 ± 3.2 mm
	平均全重量		2.3 g	—
	へい死率		—	0.4%
	異常貝出現率		0.8%	1.6%
最 善 法 第 2 回 分 散	月 日		昭和57年3月5日	
	平均殻長		66.0 ± 5.4 mm	
	平均全重量		28.7 ± 6.0 g	—
	へい死率		4.6%	
	異常貝出現率		0.8%	

2 生育状況

第3図に久栗坂実験漁場における殻長、全重量の推移を、第1表に久栗坂、川内実験漁場の測定結果を示した。

昨年に比べると、殻長、全重量ともに大きくなっているが、これは昨年は採苗器投入時期がおくれたことから小型であったため、今年が例年並といえる。

へい死率・異常貝出現率は、昨年に比べ若干高めであるが、久栗坂漁場の最善法第2回分散時でも5%以下であるところから年変動の範囲内と思われた。